

福島復興後押し 隈研吾さん設計新工場

機械工具メーカーの日東工器（東京都大田区）は1日、福島市内で新工場の完成式を行った。美しい外観の工場は、建築家の隈研吾さんが設計。隈さんは福島県浪江町の再生プロジェクトにも携わっており、「これまで続けてきた復興支援の集大成」と話した。

新工場は鉄骨2階建て、延べ床面積約2万平方メートル。「魅せる工場」をコンセプトに、柔らかな曲線の外観にガラス張りの空間を設け、福島県産スギをふんだんに使った外観が特徴。東北中央道の福島大



隈研吾さんが設計した日東工器の新工場完成式。1日、福島市で

日東工器完成 自然と調和

筐生（かきま）インターチェンジに接した工業団地内にある。

同社の山形市と福島県白河市の2工場を統合した新工場は、美術館の防火扉などに使われる「ドアクローザー」などを製造する。高い生産性と品質向上のため、最新の工業ロボットも導入した。

新たに地元から約50人を雇い、この日から稼働を始めた。最新の加工用ロボットの展示や工具体験コーナー、見学ルートも設けた。千件を超える問い合わせがあり、新名所になりそうだ。

式典で、隈さんは「初めての工場設計。デザイン性と機能性の両立に苦労したが、美しい福島を自然を感じられる新工場となった」と手応えを語った。福島市の木幡浩市長は「地元企業と連携する仕組みづくりを手伝いたい」と話した。

小形明誠（あきなり）社長は、資材高騰で一時は計画が危ぶまれたが、地元の多大な協力で完成したと説明。「復興のシンボルとなるよう福島と一緒に発展したい」と力を込めた。

（市川千晴）